

# 目次

まえがき	i
<b>第 1 章</b> イントロダクション	1
1.1 意味研究の条件	1
1.2 意味へのアプローチ	4
1.3 モデル	6
1.4 論理学の位置づけ	8
1.5 指示としての意味	9
1.6 結論	10
考えるヒント 1 術語の意味	11
<b>第 2 章</b> 意味論の工具箱—集合と関数	13
2.1 集合	13
2.2 関数	22
2.3 結論	33
考えるヒント 2 オペレーターの位置	34
<b>第 3 章</b> 命題論理	35
3.1 命題論理のあらまし	35
3.2 統辞論と意味論	43
3.3 推論	50
3.4 結論	58
考えるヒント 3 専門語	59

---

<b>第4章</b>	<b>述語論理</b>	61
4.1	述語論理のあらまし	61
4.2	量子子	63
4.3	統辞論	68
4.4	意味論	71
4.5	スコープの曖昧性	81
4.6	述語論理の推論	82
4.7	結論	88
	考えるヒント4 主語, 目的語とは何か	88
<b>第5章</b>	<b>句構造文法, カテゴリー文法およびタイプ理論</b>	91
5.1	はじめに	91
5.2	句構造文法	91
5.3	カテゴリー文法, タイプ理論と $\lambda$ 計算	108
5.4	結論	138
	考えるヒント5 再帰的定義	138
<b>第6章</b>	<b>内包論理と可能世界意味論</b>	141
6.1	内包論理のあらまし	141
6.2	様相論理の基礎	145
6.3	到達可能性に関する条件	152
6.4	内包的文脈とは何か	154
6.5	内包タイプ理論	157
6.6	内包意味論への $\lambda$ 表記の応用	165
6.7	結論	167
	考えるヒント6 新デイヴィドソン式表記	167
<b>第7章</b>	<b>モンタギュー意味論</b>	171
7.1	モンタギュー意味論のあらまし	171
7.2	名詞句の解釈	175
7.3	統辞論—カテゴリー文法	179
7.4	内包論理	183

---

7.5	主要な文の翻訳 . . . . .	191
7.6	結論 . . . . .	208
	考えるヒント 7 発話行為 . . . . .	209
<b>第 8 章</b>	<b>ダイナミック意味論</b>	<b>211</b>
8.1	はじめに . . . . .	211
8.2	モンタギュー意味論の問題点 . . . . .	212
8.3	ダイナミック意味論による解決 . . . . .	214
8.4	ディスコース表示理論 . . . . .	227
8.5	結論 . . . . .	231
<b>第 9 章</b>	<b>おわりに</b>	<b>233</b>
9.1	結論としての展望 . . . . .	233
9.2	もっと勉強したい人のために . . . . .	234
<b>付録 1</b>	<b>ギリシャ文字とその読み方</b>	<b>242</b>
<b>付録 2</b>	<b>記号表</b>	<b>243</b>
<b>付録 3</b>	<b>英和対照術語表</b>	<b>246</b>
<b>引用文献</b>		<b>251</b>
<b>索引</b>		<b>255</b>